

はじめに

近年、就職・進学を問わず子供たちの進路をめぐる環境が大きく変化している中、社会的・職業的自立に向け必要な能力や態度を育てるキャリア教育の更なる推進・充実が強く求められている。本調査は、このようなキャリア教育の重要性に鑑み、効果的なキャリア教育の推進・充実に資する基礎資料を得るため、小学校・中学校・高等学校におけるキャリア教育・進路指導の実態を総合的に明らかにすることを目的として実施したものである。

キャリア教育とねらいや理念を共有し、中学校及び高等学校において実践が続けられてきた進路指導の実態については、文部省初等中等教育局職業教育課（当時）が、昭和40年代、50年代、60年代において、それぞれ学習指導要領の改訂に先立って調査を実施してきた。その後、平成6年に文部省大臣官房調査統計企画課が、高等学校の進路指導に関して、部分的ながらも「学校教育と卒業後の進路に関する調査」を行い、平成10年には、いわゆる「業者テスト追放（平成5年）」後の中学校の進路指導の状況を把握するため、職業教育課が「中学校における進路指導に関する総合的実態調査」を実施した。

そして、中学校における総合的実態調査から7年後の平成17年には、文部科学省からの委託を受けた日本進路指導協会が「中学校・高等学校における進路指導に関する総合的実態調査」を実施し、平成18年3月に報告書を取りまとめている。

日本進路指導協会による調査から7年が経過し、この間、第1期教育振興基本計画（平成20年7月）において小学校からのキャリア教育の推進が重要課題の一角に位置付けられ、中央教育審議会答申（平成23年1月）においてキャリア教育の新たな方向性が示されるなど、キャリア教育・進路指導を取り巻く状況は大きく変化している。こうした状況を踏まえ、今回新たに小学校も調査対象に加えて、キャリア教育・進路指導の実態に関する総合的な実態調査を行うに至った。

本調査においては、前回調査の結果との比較考察を前提とした設問を精選して残しつつ、キャリア教育の取組の実態を浮き彫りにすることを主眼とする新規調査項目を多く設定した。調査結果をできる限り速やかに報告するため、本年3月には第一次報告書を提示した。ここでは、設問ごとの結果に対する整理と分析を中心に据えていた。

その後、本調査の結果については、前回までの調査では実施されてこなかったクロス集計や多変量解析等の詳細な整理・分析を行い、以下のような主要分析結果を本第二次報告書に取りまとめた。

○キャリア教育は学習意欲の向上に影響する

- ・ 小学校においては、重点目標を絞り、具体的目標を明確にしたキャリア教育の計画の下で担任が積極的にキャリア教育を実践することで児童の学習意欲の向上につながる（小学校（3）, P40）。
- ・ 中学校においては、全校的にキャリア教育を推進することが生徒の学習意欲の向上に影響する。加えて、生徒がキャリア教育の学びに取り組むよう促し、保護者の理解と協力を得てキャリア教育を進めることが学習意欲の向上につながる（中学校（3）, P68）。
- ・ 高等学校においては、担任が自校や生徒の現状をベースにした計画を立ててキャリア教育に取り組み、入学から卒業まで体系的にキャリア教育を展開することで生徒の

学習意欲の向上につながる（高等学校（3），P99）。

- ・各学校段階に共通した点として、全校的なキャリア教育の計画と児童生徒の発達課題に即した学年における計画を定め、計画に基づいて担任が、時間を確保し、学級活動やホームルーム活動を実践すれば、生徒の学習意欲の向上につながる。また、そういった学校では、児童生徒自身がキャリア教育の学習に対しても積極的である（各学校種（2），P122）。

○全体計画の策定は各校のキャリア教育を充実させる

- ・小学校においては、キャリア教育全体計画の策定が担任のキャリア教育活動に対する積極性につながる（小学校（2）図1，P27～28）。
- ・中学校においては、キャリア教育全体計画の有無が生徒や担任の意識や行動に影響を与える（中学校（2）図1～4，P55～60）。
- ・高等学校においては、キャリア教育全体計画への現状把握や評価計画の具体的記載が担任による積極的な指導につながる（高等学校（2）図1～3，P83～87）。

○体験活動は児童生徒の職業への意識や学校生活への積極性を高める

- ・小学校においては、体験活動の事前・事後指導の充実が児童の職業意識を高める（小学校（2）図4，P31～32）。
- ・中学校における職場体験は、生徒の学校生活への積極性を高める。また、生き方や進路の学習を生徒が重視する程度を高める（中学校（2）図5～7，P61～64）。
- ・高等学校においては、インターンシップの事前・事後指導の充実が生徒の学習意欲の向上につながる（高等学校（2）図4・5，P87～90）。

○キャリア教育の充実には、研修機会の確保や保護者、地域との連携が重要である

- ・キャリア・カウンセリングの充実や将来の諸リスクへの対応についての指導などキャリア教育への期待は大きい。また、学校で学ぶことが大人になったときの仕事や生活で役立つという、学びの意義を児童生徒に意識させる指導手法を教師は身に付ける必要がある（小学校（1）テーマ1，P14、小学校（1）テーマ2図1，P18、中学校（1）テーマ2図1，P46、高等学校（1）テーマ2表1図3，P75～76）。
- ・キャリア教育の評価に関する情報提供への期待は高い。キャリア教育の研修機会確保は喫緊の課題である（中学校（1）テーマ3図4，P52、高等学校（1）テーマ3，P79～81）。
- ・キャリア教育の充実には異校種連携、学校と保護者、地域や外部団体との連携機会の確保、双方利益につながる関係性の構築が求められる（各学校種（1）テーマ2図1，P106～108、各学校種（1）テーマ3表6，P111～113）。

本第二次報告書が、文部科学省、教育委員会そして学校のキャリア教育・進路指導の改善・充実に資することを強く願うと同時に、本調査の実施に協力をいただいた教育委員会や学校の関係者、及び、調査に回答をいただいた方々に深く感謝を申し上げます。

平成 25 年 10 月

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター
センター長 頼本 維樹